

## 「サイエンスカフェ in 静岡」第 149 話 (2021 年 10 月 28 日) Q&A

テーマ： 「姿が異なるオスとメス

～クワガタムシの雌雄差を生み出す発生メカニズム～

講師： 後藤 寛貴 (理学部 生物科学科)

**Q1.** クワガタムシが卵を産む時に、木に目印のような物つけますが、なぜですか？

**A1.** 良くわかっていません。個人的には卵の周りの木を削ることにより、木に潜っている他の虫(ゴミムシダマシ甲虫の幼虫など、クワガタの卵を傷つける可能性がある虫)が卵に到達しにくくなり、卵の生存率が上がるのではないかと考えています。

**Q2.** メスのあごが小さいのはなぜですか？オスは闘う為ですが、仮説はありますか？僕は木を掘ってたまごを産むのに便利だからと思っています。

**A2.** 1 つは質問者さんが言う通り、木や土を掘って卵を産むのに便利だからだと思います。

他にも大きい顎を形成するには余計に細胞分裂をしないといけないので大きなエネルギーが必要だったり、大きい顎を持っていることで天敵に狙われやすくなるなど、大きい顎を持つデメリットも複数あると考えられます。オスは闘争に勝ちやすくなるというメリットがあるので、デメリットを相殺できますが、メスが大きい顎を持ってもデメリットだけを受ける羽目になります。そのため、メスの顎は小さいと考えられます。

**Q3.** カブトムシやクワガタを飼育するときに、どこからともなくコバエが現れることがあるのですがどのように対策するべきでしょうか？

**A3.** これは全国の飼育愛好者が悩まされる問題です。

カブトムシやクワガタムシ飼育で問題となるコバエは、エサのゼリーから発生するショウジョウバエと、マットから発生するクロバネキノコバエの 2 種類が存在します。

ショウジョウバエは、こまめにゼリーを代えることで撲滅が可能です。マットをこまめに交換することは手間的に難しく、クロバネキノコバエの撲滅は困難を極めます。

対処療法的な対策しかなく、「ケース内にハエが入りにくい飼育ケースを使用する」「ハエが沸いたケースは隔離する」などの対策で拡大を防ぐしかありません。

**Q4.** 一番好きなクワガタムシはなんですか？僕はノギリクワガタです。

**A4.** これはとても難しい質問です。

僕自身は体全体の造詣の完成度は大型のノギリクワガタだと思っていますが、色味を加味して考えるとエラフスホソアカクワガタのような種類の美麗さが光ります。

ずっしりと存在感と高級感を発揮するのはやはりオオクワガタですし、実物が思った以上にカッコ良く、ファンが多いのもうなずけるのはマルバネクワガタです。

色と形状のバランスで言うならばカネギエーテルノギリクワガタはもっと評価されてしかるべきだと考えていますし、実験材料として使いやすいのはメタリフェルホソアカクワガタです。そんなわけで「一番」を決めるのは困難を極めます。